

令和 2 年 度

千早赤阪村立学校

評価報告書

(千早赤阪村立中学校)

校長名 (仲村 悦弘)

1. 教育目標

「自立への意欲と自信」

○確かな学力をつける ○豊かな心を養う ○健やかな体を育てる

【めざす生徒像】

- ・思いやるやさしさを身につけた生徒
- ・学ぶ喜びを見つける生徒
- ・弾むたくましさにあふれる生徒

2. 経営方針

【めざす学校像】

- 教育目標の達成に向けた様々な取組みにより、生徒一人ひとりの個性を發揮し、いきいき活動する明るい学校
- 学校全体として、生徒の学力に向けた方策の展開
- 高い人権意識に基づいた生徒指導の展開
- 地域で育つ子どもたちの視点を大切にされた開かれた学校
- きめ細かな指導、支援に努め、生徒一人ひとりをより大切にする学校
- 生徒による清掃活動や環境整備に努める美しい学校

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力向上と教育力の充実
P	重点目標	<p>■基礎基本の充実を図るとともに、自ら学ぶ意欲を大切にしたい、主体的・対話的で深い学びを重視した学習活動を行う。</p> <p>○自学自習力も含めた学力向上の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考え話す、書く活動及び知識、技能を活用する力の育成 ・ICTを活用するなど、主体的・対話的で深い学びによる授業の創造 ・読書活動の充実や蔵書等の環境整備 ・KGGノート（自学自習ノート）などを活用し学習習慣の定着 <p>■個に応じた支援体制・個に応じた自立活動を行う。</p>
D	具体的な取り組み内容	<p>■研究授業及び研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の「めあて」と「振り返り」を重視した授業の実施・授業スタンダードの「考える、話す、書く」を重視した授業づくり及び授業スタンダードを重視した研究授業の実施。 ・全ての教科、領域等でICTを積極的に活用した主体的で対話的で深い学びの学習活動の充実 ・自学自習ノート（KGGノート）の取り組み及び表彰 ・効果的な生徒作成ノートや発表資料の作成、掲示・テスト前学習会や放課後学習会の実施。 ・小説や物語を中心に朝読書を毎日実施し、日付、ページ数を記入・蔵書数の管理はバーコード読みとり方式。 ・特別の教科道徳の研究授業を実施し、道徳の研究授業の研修。 ・定期的テストや実力テストにおける活用問題に位置づけ ・未履修の対策として2学期に7時間授業の実施。 <p>■個に応じた支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級教室で個に応じた自立活動を行った。（コグトレ等）
C	自己評価／成果と課題	<p>■研究授業及び研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業スタンダードの「考える」「話す」「書く」は共通意識が持っており、授業スタンダードを活用した研究授業を実施し、意見を交流することを通して、知識を活用する力の育成について研修した。 ・生徒が作成したノートや発表資料を定期的に掲示することにより、論理的思考力をもとにしたノートや発表資料の作成について、生徒の意識が高まった。 <p>■特別の教科道徳の研究授業を実施し、小学校の先生にも参観していただき、「道徳の授業」についての研修を深めた</p> <p>■自学自習ノート（KGGノート）の取り組みのさらなる充実</p>
A	次年度に向けて	<p>○すべての生徒が持つことになるタブレットでのアプリ等の使用方法を確立し、学力向上のツールにする。</p> <p>○新指導要領の考え方に対応した3観点である「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の評価に関する研修が必要。</p> <p>○新学習指導要領の本格的実施に向けた学習向上の取り組みを一層充実させる。</p>

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ 豊かでたくましい人間性の育成
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画的・継続的に子どもの内面にふれる教育 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の行動に責任感を持ち、自らを考え、正しく判断できる態度の育成 ・自分と他人ともに大切にして生活する態度の育成 ・すべての教科、領域等で人間関係力の育成に視点をあてた指導 ■ 道徳実践力を高め、人間性豊かな子どもの育成を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の方法や評価について研究 ■ キャリア教育の推進を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体としてのカリキュラムの整理
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 支援を要すると思われる生徒への支援方法の協議 <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な連絡会議 ・個別ケース会議の継続実施（SC、SSW との連携） ・外部の専門講師による助言 ・教育相談や生活アンケートを活用した早期発見対応 ・授業や学校行事において、生徒のつながりを大切にしながら取り組みを進め、生徒の様子について情報共有に努める。 ・くすのきルームとの連携（SSW との連携） ・生徒の学校生活を大切にされた校則の改定を行った。 ■ 「特別の教科 道徳」の授業づくりについての研修を実施した。 ■ キャリア教育に関わるキャリアパスポートの作成を各学年で取り組みを進めた。
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 校内支援教育推進委員会において、定期的に情報共有及び協議を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援体制については、学年部会や生徒指導部会において、ケース会議の実施に努めた。 ・村福祉部局及び子ども家庭センターと連携し、指導面に生かすことができた ・教育相談、生活アンケートを中心に生徒の実態の把握に努めた。 ・くすのきルームと連携し、ルームに在籍する生徒の状況を確認することができている。 ■ キャリア教育を推進するため、キャリアパスポートの取り組みについて共通理解ができた
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○ 支援を要する生徒について、指導方法等を教職員で共有する方策 <ul style="list-style-type: none"> ・ SC・SSW との一層効果的な活用 ・ 保護者への対応 ・ 生徒の自主的な活動への支援と達成感を大切にされた指導 ○ キャリア教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアパスポートで生徒の記録を蓄積していく。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

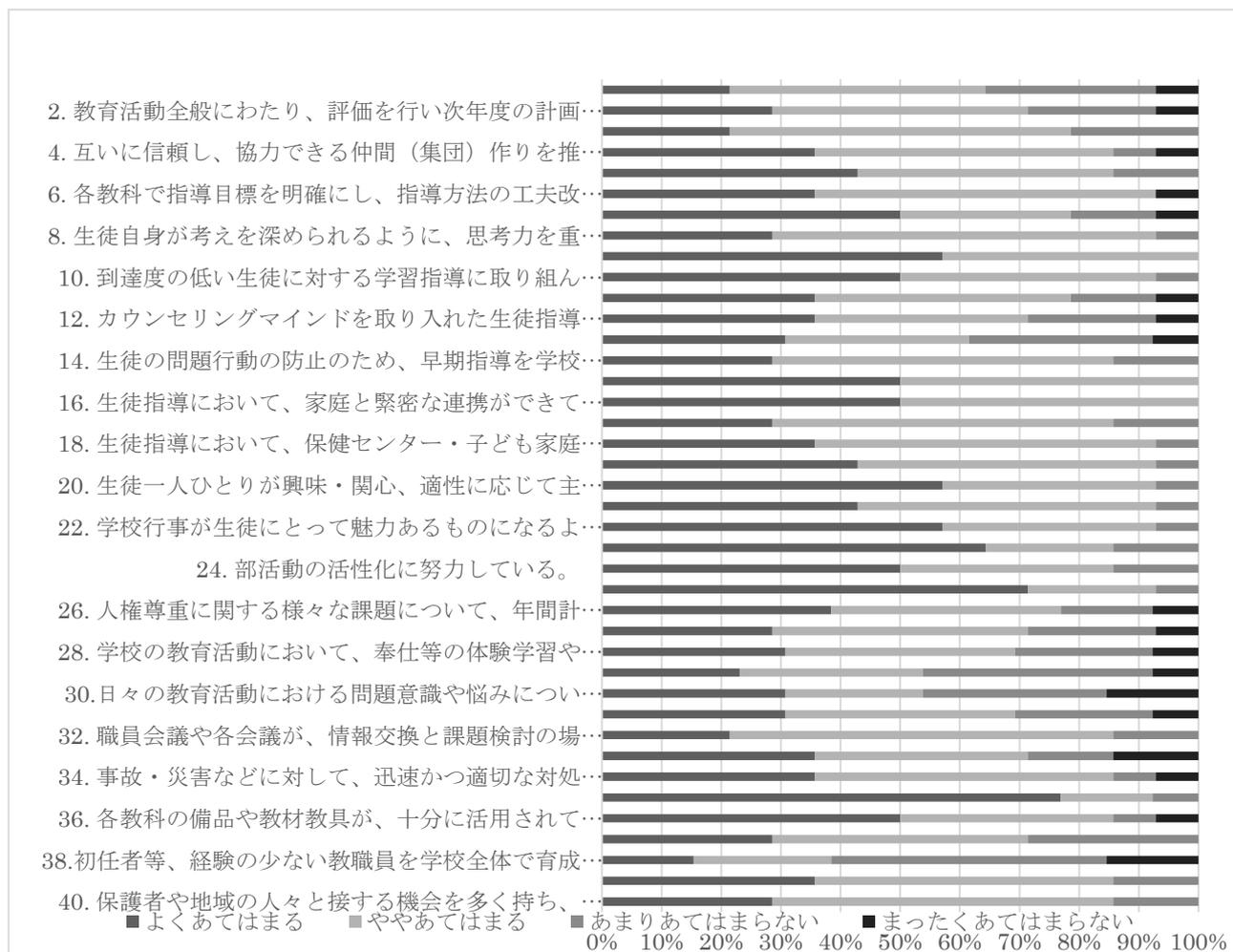
		Ⅲ 安全安心な学校づくりの推進
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ■主体的に安全に行動できる生徒の育成 ■通学路や校区の危険箇所の把握と対応 ■個別の対応ケースを充実するとともにSCやSSW、給食センターなどと効果的に連携する。 <ul style="list-style-type: none"> ・様々なケースを想定した避難訓練など防災教育を計画的に実施する。 ・通学路の危険箇所の把握と対応 ・いじめの未然防止と早期対応を実施 ・食物アレルギー対応を行う。 ・生徒のケアのため、SC、SSWとの積極な連携
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■主体的に安全に行動できる生徒の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・学期始めや終わりでの啓発や指導・自転車通学生の危険通行注意喚起 ・防災アドバイザーによる教職員研修・新型コロナウイルスの感染予防のための対応の実施 ■通学路や校区の危険箇所の把握と対応 <ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導の実施と通学路の安全確認 ・PTA 実行委員会等での危険箇所の確認 ■各学期における個別の教育相談の設定と「いじめアンケート」の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の悩みに寄り添い、問題行動の早期発見、未然防止に努める。 ・週1回、定期的に生徒の様子や問題行動についての情報共有する機会を持っている。
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■主体的に安全に行動できる生徒の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・自転車通学生への注意喚起及び適宜指導することができた。 ・新型コロナウイルス感染予防のため、「体温チェックシート」活用し、換気、共用場所の消毒、手洗い等を行った。 ・教室内の湿度保持のため、濡れタオルやミストを活用した。 ■通学路や校区の危険箇所の把握と対応 <ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全点検を実施した。PTA と工事の危険箇所について協議し、それについて対応した。 ・地図による危険箇所の確認は、継続している ■学期ごとの個別の「教育相談」や「いじめアンケート」の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談やいじめアンケートの内容を教職員で共有し、問題行動の未然防止に努めた。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度、コロナ対応で、実際の避難訓練ができなかった。(座学中心) できれば生徒に防災アドバイザーの防災教室をしていただきたい。 ○安全面を考慮しなければならないが、自転車通学の距離変更も想定している。 ○子どもを知る手掛かりとして、教育相談といじめアンケートを継続していく。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		IV 学校及び教職員の資質の向上
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ■学校評議員や保護者との連携 ■教職員の資質向上や不祥事の防止 ■小学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・地域とともにある学校園づくり ・生活指導や研究授業などで連携 ・経験少ない教員の育成 ・不祥事の未然防止 ・長時間労働の改善
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ■学校評議会 <ul style="list-style-type: none"> ・外部から校内の様子について、様々な角度からご意見、ご質問をいただいた。今年度は会議を行わず、ご意見を伺った。 ■小学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・年 10 回の生活指導連絡協議会により、駐在さんにも参加いただき、小学校・中学校の情報交換が行われた。 ・中学校英語科の授業に小学校の先生が参加していただいた。また SE 授業公開にも小学校の先生に参加していただき、小学校の SE 授業には、中学校の教師が参加した。 ■教職員の資質の向上と不祥事の防止について <ul style="list-style-type: none"> ・相互の授業見学と年 2 回の研究授業を実施し、授業改善につなげている。経験の浅い教員の困り感に対応した観察指導。 ・様々な会議を活用し、具体的な資料により、不祥事の未然防止を図った。 ・生徒のことを考えた校則の改定を行った。
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■小学校との交流 <ul style="list-style-type: none"> ・小中生活指導連絡協議会の情報交換により、様々な状況がよくわかり、本校の生徒指導に役立った。 ・SE の授業や英語の授業に小学校の先生の見学より、本校の授業改善につながった。 ■教職員の資質の向上と不祥事の防止について <ul style="list-style-type: none"> ・体罰、わいせつ事案等の具体的な説明により不祥事未然防止に努めた。 ・職務の効率化による働き方への意識を高めた。 ・生徒が学校生活しやすいように校則の改定を行った。 ・授業研究のポイントを明確にし、授業改善に必要な課題点を話し合うことができた。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○職務効率化の徹底と部活動も含めて教職員の勤務時間の改善を検討していく必要がある ○行事等を通じた小学校や幼稚園とつながる対応について ○学校評議員による会議の開催 ○特に経験の浅い教員の効果的な授業観察と事後協議

4. 教育自己評価

【教職員による評価】



教職員アンケート結果より

○概ねの項目で肯定的評価が70%以上となっている。昨年度より少し全般的に低い傾向になっている肯定的な評価項目が特に低い項目は次の通りです。

「経験の少ない教職員を学校全体で育成する。」約40%

→経験の少ない教員の割合が高くなっている。学校規模が小さいため、教員数も少なく校務分掌上体制づくりが難しい。平素から経験の浅い教員を育成する仕組みが難しい課題となっている。できるだけ様々な取り組みの中で育成する観点を大切にしながら進めていく必要がある。

「学校運営に教職員の意見が反映されている」約55%

→今後より一層、日頃から教職員の声に耳を傾け学校運営に活かす必要がある。

5. 学校関係者評価

※学校アンケート（生徒用・保護者用）

6. 第三者評価

○本校学校評議員による評価→回答

- ・コロナ禍のひずみで不登校が増えてないか危惧している。
- ・くすのきルームに通っている生徒もおり、それは良い方向と考えている。
- ・6月からの授業開始なので、授業の進捗状況が心配である。
→2学期に7時間授業を行いました。
- ・体力の低下も心配なところ。生徒同士が間隔をあけるので、日常の遊びやゲームが少なくなると思う。体育の授業と部活動が大切になる。
- ・英検の大切さを感じている。今後も進めて欲しい。
- ・入試が始まるが、その範囲は配慮されているのか。
→入試の問題の範囲は通常より少し狭くなっています。
- ・休みがちな生徒にも、本人の気持ちに寄り添って欲しい。
- ・先生方も若い先生も多いので、研修や経験の豊富な人の話もたいせつになる。